



学校だより アンケート特集号

後期の児童アンケート結果です。結果の集計とそこからわかる傾向と今後の課題について、考察してみましたのでお知らせいたします。

低学年・中学年・高学年と学年が進むにつれて各項目の割合はどう変わっていくかを調べました。

平成31年1月

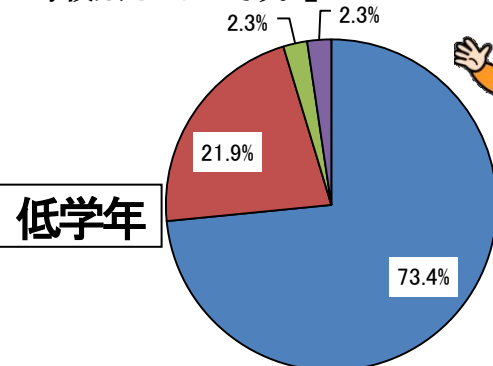
京都市立桂東小学校

校長 和田 英明

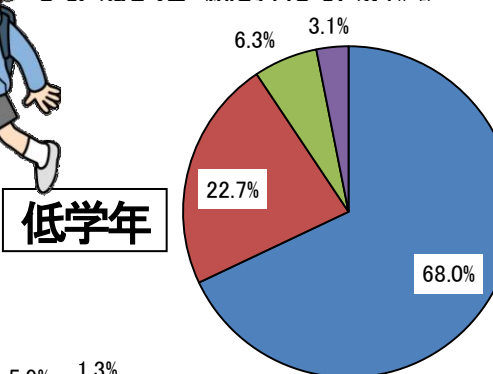


子どもたちのアンケート結果から（１）

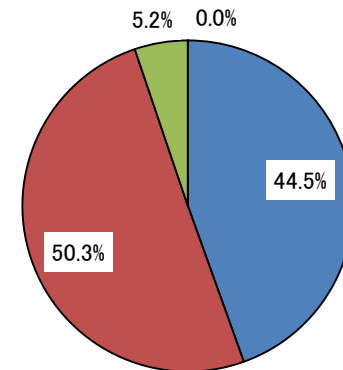
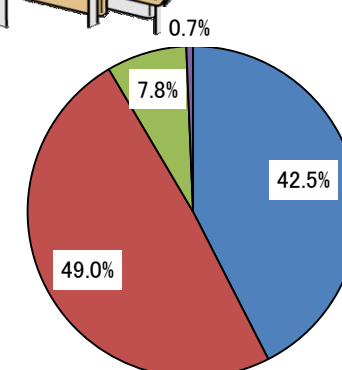
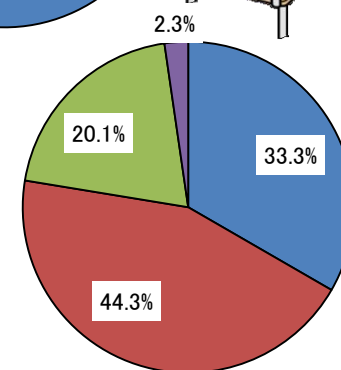
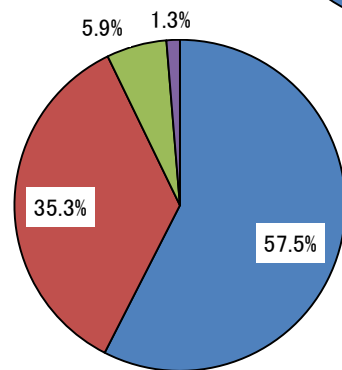
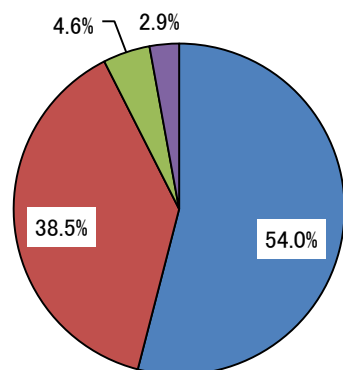
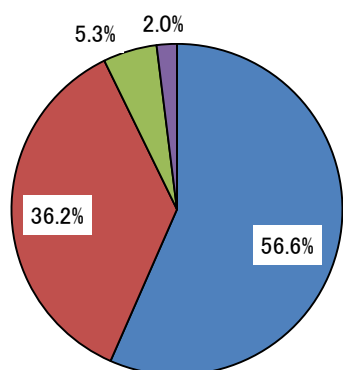
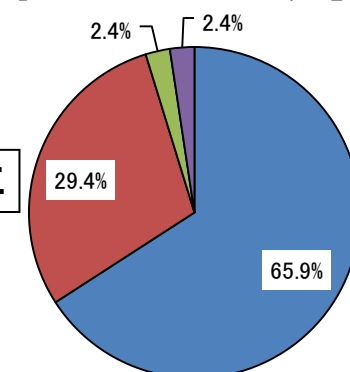
『学校はたのしいです。』



『自分の考えをしっかりと発表したり、友だちの意見をしっかりと聞いたりして、友だちと一緒に学習しています。』



『「あいさつ・ベル着・トイレのスリッパ」がしっかりとできています。』



“とても楽しい” “まあまあ楽しい” を合せた割合を前期と比べると、低学年・中学年・高学年ともにほとんど差異はなく、いずれも92～97%ぐらいを推移しており、高学年も結構高い数字となっております。しかし、“とても楽しい”だけを前期と比べると、低学年で6.0%伸びていますが、中学年では15.4%、高学年では14.4%減少してきている。

また、前期は“楽しくない”はどの学年も0%でしたが、2.0%～2.9%を推移しています。高学年になっていくと“楽しくない”が増えてきています。この時期は6年生にとっては卒業が迫ってきており、自分のめあてをもち、モチベーションを持続して主体的に取り組めるような行事や部活動などが終わっていく中で、前期と比べてみて充実感・成就感を感じることが少なくなっていく、このような結果になっているのかもしれませんが、常に、夢中になれる何かを見つけて取り組んでいくことが大事だと思います。その他、いろいろな要因も考えられます。ご心配なことがありましたら、担任にご相談ください。

前期では、“出来ていない”はどの学年も0%でした。“あまり出来ていない”は、低学年9.6%、中学年1.4%、高学年1.7%と低学年の否定的な回答が高くなっていました。今回は、“出来ていない”と“あまり出来ていない”とを合わせると、低学年は前期と同じですが、中学年は7.2%、高学年は22.4%と否定的な回答が前年度に伸びています。2学期末にアンケートを取りましたので、日々の学習もテストが普段よりも多く、みんなで話し合う学習が少なかったため、このような結果になったのかもわかりません。

京都がいち早く来年度から新教育課程をスタートします。「主体的・対話的で深い学び」を目指して、発達段階に応じて段階的に自ら学びに向かう力を育てていきたいと思っています。1年生は、徹底的にしっかりと「聞く」、しっかりと「話す」指導力を入れていきます。また、自分の考えが深まったり、変容していく様子が実感としてとらえられるような話し合い活動に取り組んでいきたいです。

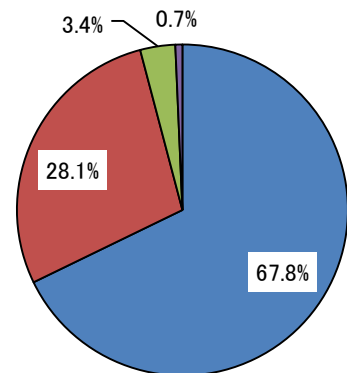
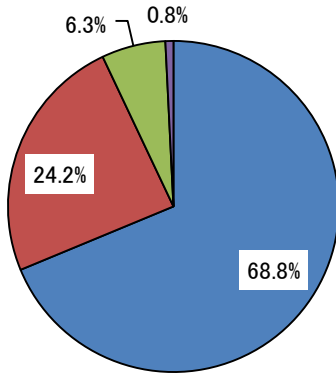
前期は“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせると低学年・中学年・高学年ともにほとんど差異はなく、いずれも96～98%ぐらいを推移しており、高学年も98.9%とかなり高い数字となっております。“出来ていない”がどの学年も0%でした。今回、“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、前回よりも少し低いです。どの学年も90%超えでした。しかし、“よく出来る”が低学年は10%、中学年は45.9%、高学年は44.5%、前期より低くなっています。

子どもたちには、よりわかりやすく成果が見えやすいようにと「あいさつ・ベル着・トイレのスリッパ」という言葉を合言葉に取り組んでいます。「時を守り、場を清め、礼を正す」人として大切なことが集約されている言葉です。今後も、“人・もの・時間を大切にする”この3つの視点で、学校と家庭・地域で共に子どもたちを育てていきたいと思っています。ご理解・ご協力よろしくお願い申し上げます。

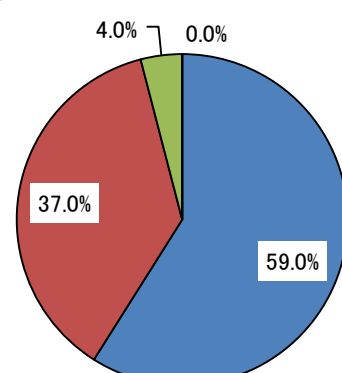
子どもたちのアンケート結果から（２）

『学校のきまりや社会のルールをしっかり守っています。』

低学年



中学年



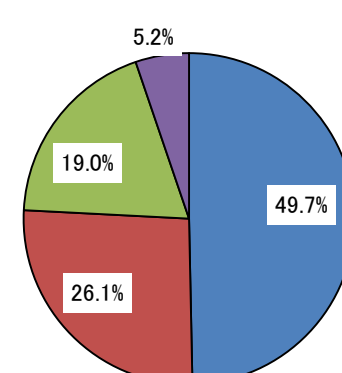
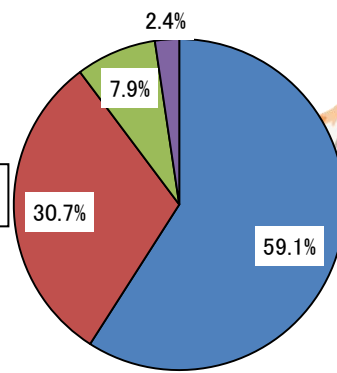
高学年

前期は“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年・中学年・高学年ともほとんど差異はなく、96%～97%と高水準を推移していました。後期も肯定的な回答は同じような推移を示しています。しかし、“あまり出来ていない”と“出来ていない”とを合わせた否定的な回答は、低学年3.3%、中学年0.1%、高学年1.4%高くなっています。保護者アンケートの実現度では、“よく出来ている”が34.3%と低い結果となっております。子どもたちと保護者の間にこれほどの温度差があるのは、学校では出来ているが、家庭や地域では出来ていないということになると思います。

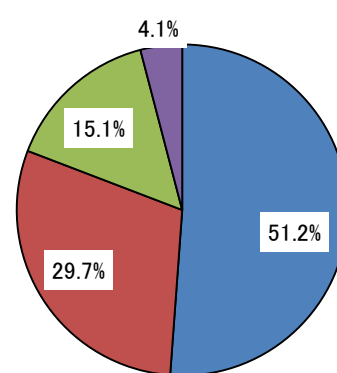
規範意識の重要性が言われ始めて久しいですが、「あいさつ・ベレ着・トイレのスリッパ」に通じる話だとも思います。あいさつについては、“誰にでも…”というのはいと感じられる保護者の方もおられるようですが、あいさつの大切さを指導していただければ…と思います。また、家庭教育を土台のもと、学校においてきまりを守ること及び他者との関わりを大事にするための具体的な活動を通じて育まれるものと考えています。ご家庭では、各ご家庭の事情に合った指導で子どもたちの規範意識を高めていただければ…と願っております。

『家で学校のことをよくお話します。』

低学年



中学年



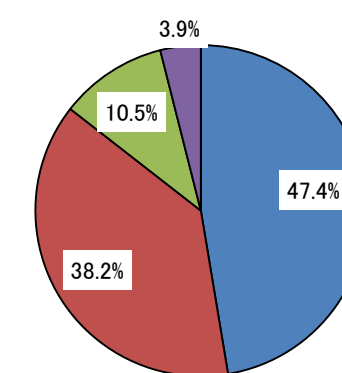
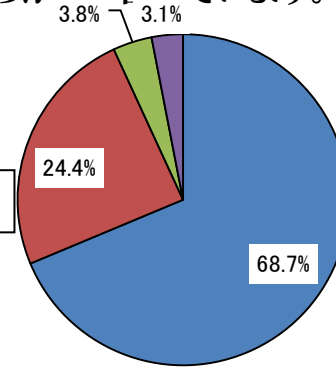
高学年

前期は“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年・中学年・高学年とも100%でした。“よく出来ている”だけを見ると、低学年・中学年・高学年とも、前期に比べて今回かなり伸びています。しかし、後期は“あまり出来ていない”と“出来ていない”とを合わせた否定的な回答が、低学年10.3%、中学年24.2%、高学年19.2%となっております。気になるところです。学校での様子は、高学年になるほど恥ずかしいのか話さなくなってきました。聞いても「別に…」とか「ふつう…」とか、言葉を濁すことが多くなっています。友だち関係や遊びの内容など、親としても知っておく必要はあると思われます。楽しく聞ける工夫をしていきたいものです。

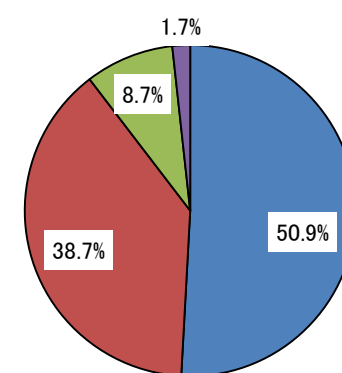
小さい頃に、よく学校のことを家で話していたのに、高学年になるにつれて、話さなくなり、同時に思いも伝えられない思うようになってきます。時間的な制約があったり、生活時間のズレがあったり、照れくさくなったりと、年齢と共に変化はしていきますが、やはり会話をする時間を確保することが必要だと思います。

『家でしっかり学習しています。』

低学年



中学年



高学年

“よく出来ている”が低学年に比べて高学年が低くなっています。“あまり出来ていない”と“出来ていない”とを合せるた否定的な回答は、中学年が一番高く、高学年と続いております。

中学年の場合、学校で学習した内容でわかったところ、わからなかったところが、十分自覚できていないように感じます。まだまだ低学年のようにご家庭でも丁寧に聴いてあげることで、お子たちにとっても何を勉強したか、どこがわからないかなど、はっきりしてきて、安心して学習に取り組んでいくことができるように思います。いろいろな方法はあると思いますが、このことを繰り返すことで、家庭での学習の習慣化を図っていただければいいかなと思います。

新教育課程では、「主体的・対話的で深い学び」が強調されています。これをどのようにとらえるか、いろいろな考えがあると思いますが、“主体的”と“家庭学習”はつながっていると思います。学年によっては自主学習ノートで家庭学習を積み上げていっています。小さな成功体験を積み重ねながら達成感を味わっていくことで、主体的な学習への意欲を高めていくことにつなげていただければと思います。